

作成日：2023年11月09日

改訂日：2024年07月01日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品の名称: ショーボンド SBLNジェル
会社名: ショーボンドマテリアル株式会社
住所: 埼玉県川越市芳野台2-8-10
担当部門: 品質保証課
電話番号: 049-225-5611 F A X: 049-225-5616
緊急連絡先: 品質保証課 電話番号: 049-225-5611
整理番号: SBLNジェル-01

推奨用途及び使用上の制限: 工業用、所定の用途以外には使用しないこと

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性:	引火性液体	該当しない
健康に対する有害性:	急性毒性(経口)	区分4
	皮膚腐食性/刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2B
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分2(心血管系、血液)
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分2(血液)
環境に対する有害性:	水生環境有害性 短期(急性)	区分3
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分3

※記載なきGHS分類区分: 区分に該当しない/分類できない

GHSラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語: 警告

危険有害性情報: H302 飲み込むと有害
H315 皮膚刺激
H320 眼刺激
H371 血管系、血液の障害のおそれ
H373 長期にわたる、又は反復暴露による血液の障害のおそれ
H402 水生生物に有害
H412 長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き

予防策: 容器を密閉しておくこと。
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
取扱後は手をよく洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
環境への放出を避けること。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面/聴覚保護具/を着用すること。

- 対応：
 飲み込んだ場合：気分が悪い時は医師に連絡すること。
 皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。
 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用して
 て容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師に連絡する事。
 気分が悪い時は、医師の診察/手当を受けること。
 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。
 皮膚刺激が生じた場合：医師の診察/手当を受けること。
 眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当を受けること。
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- 保管
 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
 施錠して保管すること。
- 廃棄
 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に、
 業務委託し廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別： 混合物

化学名又は一般名 (成分)	官報公示整理番号 化審法	CAS No.	濃度又は 濃度範囲(含有量%)
亜硝酸リチウム	1-1213	13568-33-7	30-40
硝酸リチウム	1-765	7790-69-4	5以下
添加剤	既存	非開示	5-15
水	-	7732-18-5	45-55

4. 応急処置

- 目に入った場合： 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外し、その後も洗浄をつづけること。直ちに眼科医の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合： 布で素早く拭き取り、多量の水と石鹼で洗うこと。
 直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を水またはシャワーで洗うこと。
 皮膚刺激、または、発疹が生じた場合は、医師の診断を受ける。
- 吸入した場合： 直ちに空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸のしやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合： 直ちに水で口をすすぎ、医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

- 消火剤： 小火災：二酸化炭素、粉末消火剤、泡消火剤、乾燥砂
 大火災：散水、噴霧、泡消火剤
- 使ってはならない消火剤： 火災が周辺に広がる恐れがあるため、直接の棒状注水を避ける。
- 特有の消火方法： 消火作業は、可能な限り風上から行なう。移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
 容器を移動できない場合は、容器および周囲に散水して冷却する。火災の規模、種類に応じて適切な消火剤を使用する。
 消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを使用する。
- 消火を行うものの保護： 消火作業の際は、必ず耐熱性着衣などを着用する。適切な保護眼鏡、手袋、化学用保護衣を着用する。状況によっては呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項： 保護具及び緊急時措置：直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離すること。関係者以外の立ち入りを禁止すること。
 作業者は適切な保護具(手袋、保護眼鏡等)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避けること。風上に留まること。低地から離れること。

環境に対する注意事項:	周辺環境に影響がある可能性があるため、製品の環境中への流出を避ける。
回収・中和:	土砂等(の不燃物)で囲みビニールシート等でおおい、蒸気の発生を抑えながら回収する。
封じ込み及び浄化の方法・機材:	危険でなければ漏れを止める。 漏出物を取り扱うときに用いる全ての設備は、アースを取る(接地)。 少量の場合、乾燥土、砂や不活性吸収剤で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。大量の場合、盛り土で覆って流出を防止し、清潔な帯電防止工具を用いる。 大量の場合、散水は蒸気濃度を低下させる。しかし密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ない恐れがある。
二次災害の防止策:	全ての発火源を速やかに取り除く。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い :

技術的対策:	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、 保護具を着用すること。
局所排気・全体換気:	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なうこと。
安全な取り扱い注意事項:	周辺で火気の使用、発生のないこと。 使用前にショーボンドマテリアルホームページ「樹脂製品の取り扱いについて」 「樹脂製品を安全にご利用いただくために」を必ず参照すること。 ホームページアドレス: https://www.sb-material.co.jp/resin/download.html すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 接触、吸入又は飲み込まないこと。 粉じん、ヒュームを吸入しないこと。 屋外又は換気の良い区域のみで使用すること。 取扱い後は、よく手を洗うこと。
接触回避:	「10.安定性及び反応性」を参照。

保管 :

技術的対策:	保管場所には危険、有害物を貯蔵し、または取扱うために必要な照明および換気 の設備を設ける。保管場所は耐火構造とする。床は浸透性の無い構造とし、環境 への流出を防ぐ。
保管条件:	酸化剤、酸から離して保管する。 容器を密閉して換気の良いところで保管すること。 施錠して保管すること。
混色禁止物質:	直射日光を遮断するか又はあたらぬ場所とする。冷暗所に密閉して保管する。 施錠する。
容器包装材料:	消防法および国連輸送法規で規定されている容器を使用する。 容器は空であっても爆発性気体を含有する可能性がある。容器の近くで切断したり、 穴を開けたり、こすったり、溶接などを行わない。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策:	可能ならば防爆の電気、換気、照明機器を使用する。 この製品を貯蔵ないし取り扱う作業場には洗顔器と安全シャワーを設置する。可能 ならば静電気放電に対する予防措置を講ずる。 高熱取り扱い、工程で蒸気、ヒューム、ミストが発生するときは、換気装置を設置す る。
管理濃度及び許容濃度	非該当、設定されていない

保護具

呼吸器の保護具:	必要な個人用保護機器を使用すること。
手の保護具:	保護手袋
目の保護具:	保護メガネ
皮膚及び身体の保護具:	化学薬品が浸透しにくい作業衣を着用する。

9. 物理的および化学的性質

物理的状態、形状等:	粘稠液体
色:	緑～青色
臭い:	無臭
融点/凝固点:	約0℃
沸点、初留点及び沸騰範囲:	約100℃
可燃性:	データなし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界:	なし
引火点:	データなし
自然発火温度:	データなし
分解温度:	データなし
pH:	8-10
動粘性率:	データなし
溶解度:	水に可溶
n-オクタノール/水分配係数(log値):	データなし
蒸気圧:	データなし
密度及び/又は相対密度:	1.2-1.3(20℃)
相対ガス密度:	データなし
粒子特性:	データなし
その他情報:	データなし

10. 安定性および反応性

安定性:	通常の取扱い条件においては安定である。 pH7.0以下で窒素酸化物ガスを発生する。
反応性:	通常取り扱い条件においては安定
避けるべき条件:	酸性物質、ヒドラジン(水和物も含む)、過酸化水素、酸化性物質、アンモニウム塩など
混触危険物質:	避けるべき条件に記載した物質
危険有害な分解生成物:	亜硝酸リチウムを加熱分解すると、有毒な窒素酸化物が発生する。

11. 有害性情報

製品の有害性情報: 情報なし

成分の有害性情報:

亜硝酸リチウム

急性毒性(経口)	区分4、ラットLD50=419mg/kg
急性毒性(経皮)	分類できない、データなし
急性毒性(吸入)	分類できない、データなし
皮膚腐食性/刺激性	区分2、経験的に刺激性ありと判断。長期接触で炎症の恐れ
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2B、経験的に眼刺激性ありと判断
呼吸器感作性	分類できない、データなし
皮膚感作性	分類できない、データなし
生殖細胞変異原性	分類できない、データなし
発がん性	分類できない、データなし
生殖毒性	分類できない、データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分2(心血管系、血液)、亜硝酸ナトリウム、亜硝酸カリウムの情報を採用した
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分2(血液)、亜硝酸ナトリウムの情報を採用した
誤えん有害性	分類できない、データなし

硝酸リチウム

急性毒性(経口)	分類できない、データなし
急性毒性(経皮)	分類できない、データなし

急性毒性(吸入)	分類できない, データなし
皮膚腐食性/刺激性	分類できない, データなし
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	分類できない, データなし
呼吸器感作性	分類できない, データなし
皮膚感作性	分類できない, データなし
生殖細胞変異原性	分類できない, データなし
発がん性	分類できない, データなし
生殖毒性	区分1A、本物質のデータはないが、リチウムを治療目的で接種した妊婦の一部に先天性奇形を生じた。ヒトに対して催奇形性が示唆されている。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	分類できない, データなし
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	分類できない, データ不足
誤えん有害性	分類できない, データなし

1 2. 環境影響情報

製品の環境影響情報: 情報なし

成分の環境影響情報:

亜硝酸リチウム

水生環境有害性 短期(急性)	区分3、ヒメダカLC50(96h) >10mg/L, <=100mg/L
水生環境有害性 長期(慢性)	分類できない, データなし
残留性・分解性	分類できない, データなし
生態蓄積性	分類できない, データなし
土壤中の移動性	分類できない, データなし
オゾン層への有害性	分類できない, モントリオール議定書付属書に記載されていない

硝酸リチウム

水生環境有害性 短期(急性)	分類できない, データなし
水生環境有害性 長期(慢性)	分類できない, データなし
残留性・分解性	データなし
生態蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	分類できない, モントリオール議定書付属書に記載されていない

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規または市町村条例に従う。都道府県知事の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理する。

この製品、廃棄物、洗浄排水は河川等に直接排出したり、そのまま埋め立てたり、投棄することは避ける。

汚染容器および包装

容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規または市町村条例に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去する。

1 4. 輸送上の注意

注意事項

取扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。

容器の漏れのないことを確かめ、転倒・落下・損傷のないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

国内規制

陸上輸送：消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法による。

海上輸送：船舶安全法に定められている運送方法に従う。

航空輸送：航空法に定められている運送方法に従う。
 国連番号：非該当
 国連分類：非該当

15. 適用法令

労働安全衛生法：	非該当
毒物及び劇物取締法：	非該当
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)：	非該当
消防法：	非危険物
水質汚濁防止法：	有害物質(亜硝酸化合物及び硝酸化合物)、生活環境項目
海洋汚染防止法：	非該当
下水道法：	環境項目
労働基準法：	名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物：非該当
環境基本法	第16条、水質汚濁に関わる環境基準 別表1
産業廃棄物処理法	事業系一般廃棄物
輸出貿易管理令	別表第一の16 キャッチオール規制

16. その他の情報

注意事項：本データは、工業的な一般的取扱いに際しての、安全な取扱いについて最新の情報を集め、記載したものです。必ずしも充分とはいえませんので取扱いには充分注意して下さい。
 新たな情報を入手した場合は、追加または改訂されることがあります。
 本製品の取扱いに記載されている以外の他の化学物質を混ぜたり、特殊な条件で使用するときは、ユーザーが安全性の評価を実施してください。

参考文献

- 1) GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場の表示及び安全データシート (SDS)：JIS Z 7253：2019)
- 2) 製品安全データシートの作成指針 平成18年5月 (社団法人 日本化学工業協会)
- 3) GHS分類結果データベース、独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ
- 4) 原材料/製品メーカーMSDS (SDS)